

学生の派遣を考える ～留学の促進と大学職員の役割～

立教大学国際センター
課長 佐々木ルリ子

1. 立教大学の概要

1874年に築地の外国人居留地に聖書と英語を教える立教学校として設立された。
現在、池袋キャンパスと新座キャンパスそれぞれに文学部、経済学部、経営学部、理学部、社会学部、法学部、異文化コミュニケーション学部、(以上池袋)、観光学部、コミュニティ福祉学部、現代心理学部(以上新座)。10学部14研究科、学生数約20,000人が在籍。職員は310名。国際センタースタッフ16名。池袋14名(専任8、嘱託他6)、新座2名(専任1、嘱託1)・・・派遣、受入れ(交換、正規)、奨学金、寮、協定、学術、渉外を担当。

2. 国際交流状況

大学間協定校 20カ国53大学、学生派遣は18カ国49大学。

学部間協定校含めて120大学以上。

2012年度10月現在、正規留学生約390名、交換留学生約120名の約510名が在籍。

3. 留学促進の支援

【従来型】

(1) 本学独自の奨学金制度

- ① 立教大学派遣留学生奨学金(給与) 大学間協定校の派遣留学生に20万円、
- ② 本学学費免除 派遣先大学の学費が免除とならない協定校に派遣留学する学生を対象に、本学学費免除を適用(在学留学を選択するもの)
- ③ 立教大学国際交流奨励奨学金(給与) 協定校のうち、自己負担額が大きい協定校に留学する学生に100万円を支給。(対象は2大学のみ)
- ④ 立教大学学部留学給与奨学金 学部間協定校の留学生に10～40万円。

(2) 募集オリエンテーション ⇒ 派遣留学生枠埋まらないという問題。⇒ 語学力不足

↓

雰囲気作りのしかけ ⇒ 国際交流行事、国際ボランティア etc.

【新規】

- (1) 休学制度の変更 2010年度から従来1年単位だった休学を半期毎に可能とし、半額だった学費を在籍料30,000円/半期に変更

以下は今年度からの新規企画

(2) IELTS 語学試験補助

大学で試験実施。受験料24,675円のうち14,675円を大学が負担。

同時にキャリアアップセミナーで試験対策セミナーを開講。

講師費用を大学が補助することで受講料がTOEFL対策講座の半額。

(3) 海外旅行保険包括契約

学生は割引料金で加入が可能。申し込みは大学内の立教トラベルプラザで行う。

☆ 海外留学生数	2005年度	176名
	2006年度	355名(経営学部・異文化コミュ学部開設)
	2009年度	576名(同学部完成年度)
	2010年度	875名(休学制度変更)
	2012年度	969名(10月末現在)

この他、私費留学をする学生も 2010 年度から激増。

(4) 教育懇談会での留学説明会開催

2011 年度まで全体会の中で 15 分程度。

今年度より午前中に国際センター主催として独立プログラム。留学についての説明、留学経験のある学生の体験談、質疑応答。

対象は首都圏の 1 年生、2 年生の保護者と家族・・・想定より多数の参加があった。

4 大学職員の役割

(1) 留学を阻害する要因、学生のニーズを把握する。

(2) 留学を促進するアイデアの企画立案、実施

5 大学職員はそのためにならなければならないか。

(1) 情報を収集し分析する能力・・・Cool Brain

(2) アイデアを実現するための交渉力・・・熱意、コミュニケーション力、機動力

(3) 周囲を巻き込む力・・・Open & Hot Mind

↓

ささいな仕事でもきっちり行うことで信頼を得る。(期限があるものは出来るだけ早く返す)

議論を恐れない。対面での話しを厭わない。(言い方、言葉の使い方を丁寧にする)

どんな仕事でも頼まれたことは、何とかして行う。(自分が無理なら、他の人をお願いする)

属性を超えて交流できる人間力を養う。(年齢、性別、職業、国籍のボーダーレス) 一芸。

気になることは、放っておかない。

6 今後の課題

人気のない国を学生にアピール

予算の獲得

学部、総長室等との連携

危機管理

以 上